

むさしの仕事 図鑑

弟の影響でお城や戦国時代など日本の歴史が好きになりました。アーキビストのお仕事にも興味津々です。

中学1年生
ほつだひなな
初田雛子さん



普段から旅行先で歴史館などに行ってその土地の歴史を知るのが好きなので今日は楽しみです！

中学3年生
みやじまるな
宮島瑞南さん

2 体験 歴史公文書の収蔵庫を見学

普段、一般の人は入れない歴史公文書の収蔵庫を特別に見学。紙が傷まないよう湿度管理を徹底しながら大量の歴史公文書を保管しています。



▲歴史公文書にはまちが歩んできた時間が刻まれています

こんなものも残ってる！



▲貴重な歴史公文書が大切に保管されている収蔵庫

▲読める文字を見つけていくと何の文書なのか分かるかも

1 体験 常設展示を見学

常設展示を行う第一展示室を見学。原始・古代から現代に至る武蔵野市の歴史を多くの人に分かりやすく伝える場です。

START



まちの進化がよく分かるね！

▲住んでいても意外と知らないまちの歴史を年代順に学習



▲発掘された土器から当時の暮らしが垣間見えます

アーキビスト (公文書専門員)

ってどんな仕事？

長く保存する価値のある歴史資料や公文書の収集、整理、保存、調査研究に携わる専門職のこと。主に公文書館や古文書館、歴史館などに勤務しています。

ここで体験



武蔵野市立 武蔵野ふるさと歴史館

歴史的価値のある資料や文化財を収集保管・調査研究・展示普及する博物館の機能と、歴史公文書を選別・保存・公開する公文書館の機能を持つユニークな施設として平成26(2014)年に開館しました。

武蔵野市境 5-15-5
TEL: 0422-53-1811



初田さん アーキビストとはどんなお仕事なのですか？

高野さん 過去と現在と未来をつなげるのがアーキビストの仕事です。博物館や美術館には学芸員がいて、図書館には司書がいますね。アーキビストは、市役所などが作った公文書の中から、「これは将来にわたって残すべき重要な資料だ」と思われるものを選びます。選ばれた文書を「歴史公文書」といいますが、これをどう保存し、後の人々に伝えていくのかを考える仕事といえます。今僕たちが生きている時代はどういう時代なのか、これからどんな時代になっていくのかを考えるとき、「じゃあ昔はどんな時代だったんだろう」と振り返ることはとても大切です。なぜなら、そこに今とこれからを考えるヒントがあるから。その時

さまざまな歴史公文書の収集や保存を通して過去・現在・未来をつなげるのがアーキビストの仕事です

武蔵野
ふるさと歴史館
公文書専門員
高野弘之さん



体験 4 企画展の広報

企画展『戦争と武蔵野IX』（7月29日[土]～9月28日[木]）の開催を知ってもらうための広報の仕事を体験。アメリカの国立公文書館から収集した写真の中から、「市報むさしの」やポスター・チラシに掲載する1枚を悩みながら選びます。



▲戦後、武蔵野市に住んでいた米軍の家族らを写した貴重な写真



▲インパクトがあって分かりやすい1枚を選ぶのは難しい



この写真だと注目されるかな？

◀女性や子どもが写っている珍しい写真をチョイス

FINISH 体験を終えて



歴史公文書が残っているから、その時代を知らない私たちも当時を知ることができるんですね。文献や資料を残していく大切さが分かりました。（宮島さん）

アーキビストの仕事についてよく知らなかったので、とても興味深かったです。これから歴史について書かれた本などの見方も変わります。（初田さん）



体験 3 歴史公文書のくずし字を解読

歴史公文書をどう残していくのか判断するためには、まず何が書かれているのかを正しく知ることが第一歩。古い文書に書かれた「くずし字」の解読に挑戦しました。



▲収蔵庫に保管されている明治19年の歴史公文書を解読



くずし字、難しそう…

◀普段見慣れた文字とは違う文書に戸惑いながら挑戦

なんとなく読める！

正解は、「北多摩郡長・砂川源五右衛門が武蔵野の戸長に出した文書」でした！



代に残された「歴史の証拠」として公文書を未来のためにどう残していくのかを考えるのもアーキビストの役割です。

宮島さん どうしてアーキビストになろうと思ったのですか？

高野さん もともと学校の先生になりたくて中高の社会科の教員免許を取得したんですけど、博物館でアルバイトをしていたとき芸芸員の仕事に興味を湧き、資料や文献を調べて研究する仕事をしたいと思うようになりました。最初はアーキビストという仕事があることを知らなかったのですが、いろいろな仕事をするうちに今の仕事に結びついていったんです。

初田さん やりがいは何ですか？

高野さん 歴史公文書を調べていく中で、「あ、コレとコレってつながっているんだ！」ということが分かった瞬間はとてもワクワクします。でも、自分が分かっただけじゃなくて、例えば展示などを通して多くの人にそれを知ってもらうって、喜んでもらえた時が一番うれしい。誰かの役に立てたと思えたとき、やっていて良かったなと思えますね。